



決算補足説明資料

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要

2018年11月8日

日本リーテック株式会社
(証券コード：1938)

連結業績サマリー



■ 業績要旨

- ・ 前期比、受注増 増収 減益 決算となった。

■ 主な要因（対前期比）

- ・ 受注高は、217億円と前期比22億円の増加となった。
各部門で新設の大型電気設備工事や既存設備の改修工事等、堅調な受注を獲得した。
- ・ 売上高は、217億円と前期比17億円の増加となった。
受注の伸びに加え、前期より繰り越した各部門の大型工事が進捗したことに伴うものである。
- ・ 営業利益は、5億円と前期比2億円弱の減少となった。
主として一般管理費（総合研修センター維持費用等）の増加による。
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、6億円と前期比1億円強の減少となった。

連結損益計算書



(単位：億円)

	2018年3月期 2Q実績	2019年3月期 2Q実績	前期比	2019年3月期 通期予想	
受注高	194	217	+22	-	-
売上高	199	217	+17	580	
営業利益	7 3.7%	5 2.5%	▲1	45	7.8%
経常利益	10 5.2%	8 4.0%	▲1	49	8.6%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	7 3.8%	6 2.8%	▲1	34	6.0%

※ 公表値は、決算短信で公表している通期の予想値となります。

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。(以降同様)

【参考】中期経営計画 “Next Stage 2018” 目標値について

(単位：億円)

	2016年3月期 実績	2019年3月期 目標値	対比
売上高	526	580	+54
営業利益	41 7.8%	45 7.8%	+4

連結貸借対照表



(単位：億円)

	17/09 2Q 実績	18/09 2Q 実績	増減
流動資産	337	404	+66
固定資産	303	333	+30
資産合計	641	738	+96
流動負債	140	199	+59
固定負債	66	70	+3
負債合計	206	269	+62
純資産合計	434	468	+33
負債純資産合計	641	738	+96
自己資本比率	67.8%	63.5%	▲4.3P

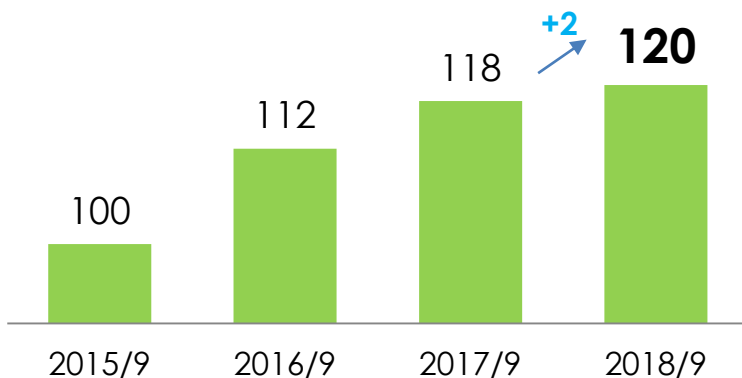
■ 主な要因（対前期比）

- ・流動資産は、完成工事未収入金の大幅増加等により前期比66億円の増加となった。
- ・固定資産は、総合研修センター完成に伴う有形固定資産の増加により前期比30億円の増加となった。
- ・結果、資産合計は、前期比96億円の大幅な増加となった。
- ・自己資本比率は、63.5%と前期比4.3P低下した。

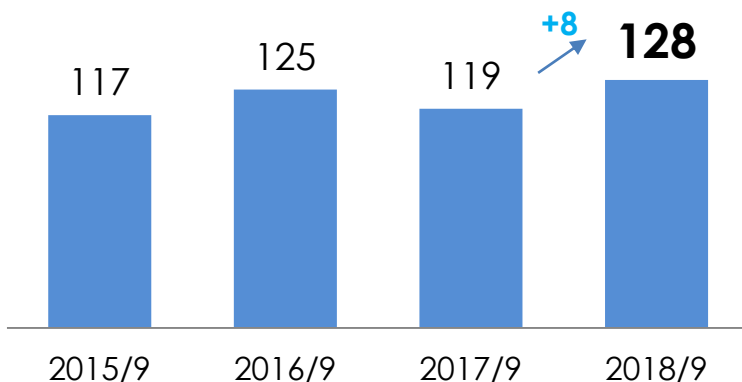
※自己資本比率 = (純資産-非支配株主持分) / 総資産

※当期より税効果会計に係る会計基準の一部改正（企業会計基準第28号）等を適用しており、前期についても適用後の数値に改めております。

■ 受注高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



■ 売上高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



主なポイント

- 受注高については、120億円と前期比2億円の増加となった。首都圏を中心に信号設備や電車線設備等、鉄道電気設備各系統における新設及び改修工事の受注は、堅調に推移している。
- 売上高については、128億円と前期比8億円の増加となった。首都圏及び東北地区の各大型工事も順調に進捗している。

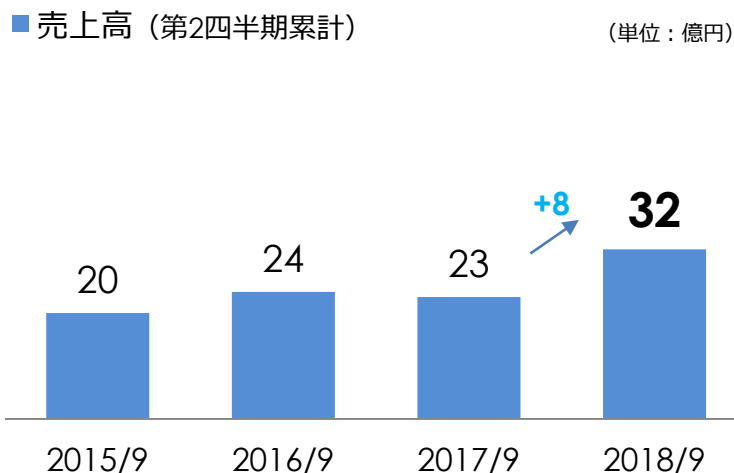
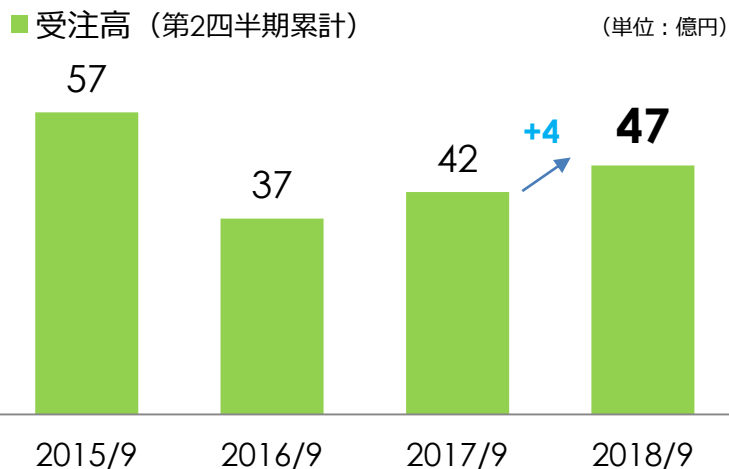
主な施工実績 (進捗中案件含む)



渋谷駅電車線路改良
(東京都)



山田線信号設備 (震災復旧)
(岩手県)



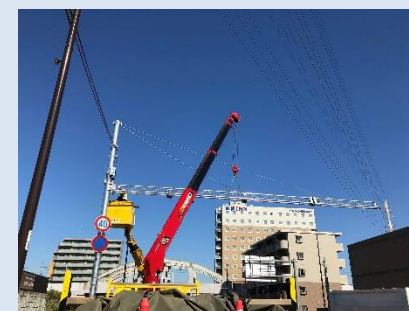
主なポイント

- 受注高については、前期比4億円増加の47億円となった。主に高速道路における標識補修及び通信設備、交通信号機改良工事等、安定した受注を確保した。
- 売上高については、前述の標識補修に加え、前期から繰り越した大型工事の進捗により、32億円と前期比8億円の増加となった。

主な施工実績 (進捗中案件含む)

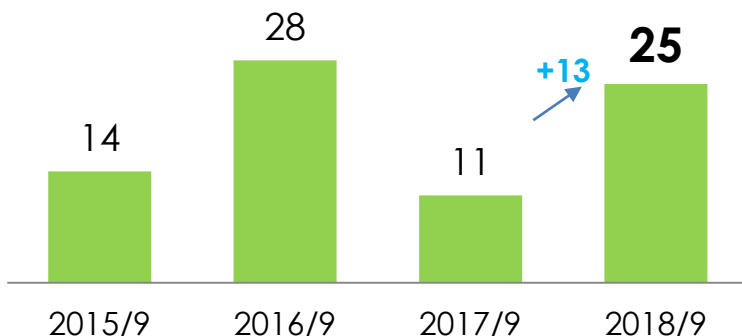


第二京阪道路標識ナンバリング (京都府)

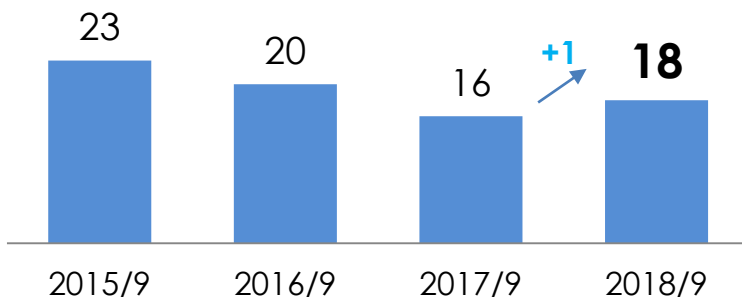


川崎街道交通信号機多現示化 (東京都)

■ 受注高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



■ 売上高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



主なポイント

- 受注高については、25億円と前期比13億円の増加となった。大型の公共施設や駅ビル、商業施設電気設備工事を受注したことによる。
- 売上高については、前期に受注した大型太陽光設備工事や鉄道関連施設等の進捗により、18億円と前期比1億円増加となった。

主な施工実績 (進捗中案件含む)

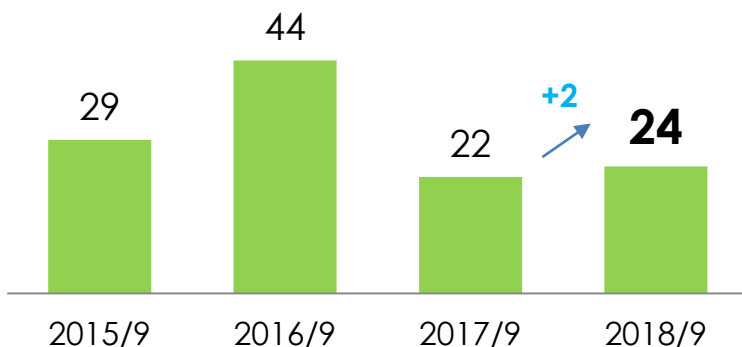


セレオ八王子レストランフロア
改装 (東京都)

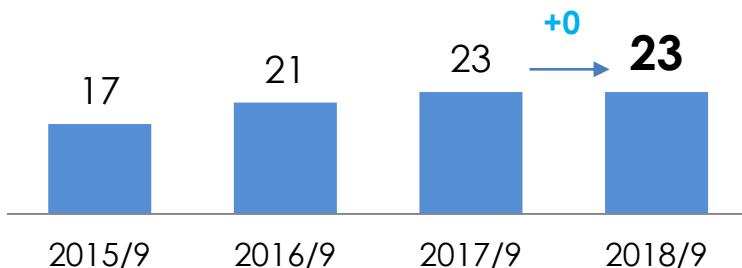


蔵前橋景観照明設置
(東京都)

■ 受注高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



■ 売上高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



主なポイント

- 受注高については、24億円と前期比2億円の増加となった。各電力会社からの鉄塔建替工事や携帯基地局工事等の受注による。
- 売上高については、前期に受注した東京、東北、中国地方の各大型幹線工事の進捗により、23億円と前期比同水準となった。

主な施工実績 (進捗中案件含む)



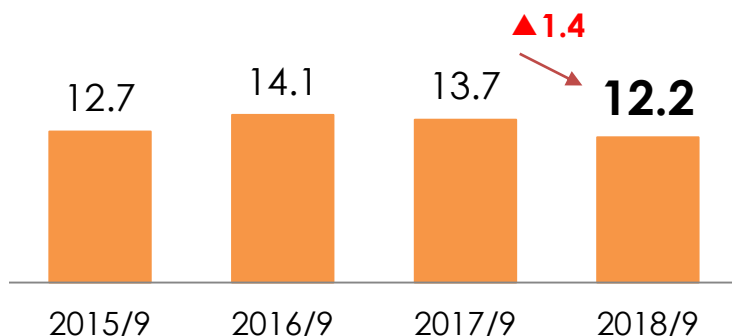
香取線No.26~35鉄塔建替
(茨城県)



西日本豪雨災害復旧
(岡山県)

兼業事業

■売上高（第2四半期累計） (単位：億円)



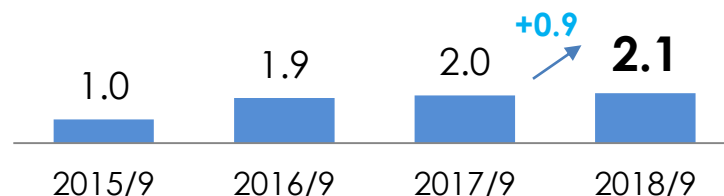
■売上高は12.2億円と前期比1.4億円の減少となった。

<兼業事業の内容>

- ・交通施設に関する標識及び交通安全用品の製造・販売業務
- ・建物・関連設備の保守管理業務、機械装置・仮設材関係の保守管理業務

不動産賃貸事業

■売上高（第2四半期累計） (単位：億円)



大崎ブライトタワー
(区分所有)



NRグランディール万代
(個人向け賃貸物件)



2019年3月期 連結業績予想

連結業績予想サマリー



■ 業績予想要旨 (前回公表数値から変更なし)

- 2019年3月期の業績については、**前期比“増収減益（営業・経常増益）”**を予想。
※中期経営計画“Next Stage 2018”の数値目標達成を目指す。
- 売上高は、引き続き各分野で堅調な受注を確保していくとともに、前期末繰越工事が過去と比較して大きいことから、各部門の大型プロジェクト工事の進捗が予定されるため、前期比53億円の大幅増加を見込む。
- 営業利益は、増収により前期比5億円の増加及び前期を上回る水準の利益率を見込む。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期の特殊要因（投資有価証券売却益）がなくなること等を加味し、前期比減少を見込む。

(今期の主なトピックス)

- 次期 中期経営計画の策定
- 総合研修センター（ゆめみ野学園）運用開始（2018/4～）
- 設備投資-大宮支社新設・移転（2018/10 完成）



完成した大宮支社

連結業績予想数値



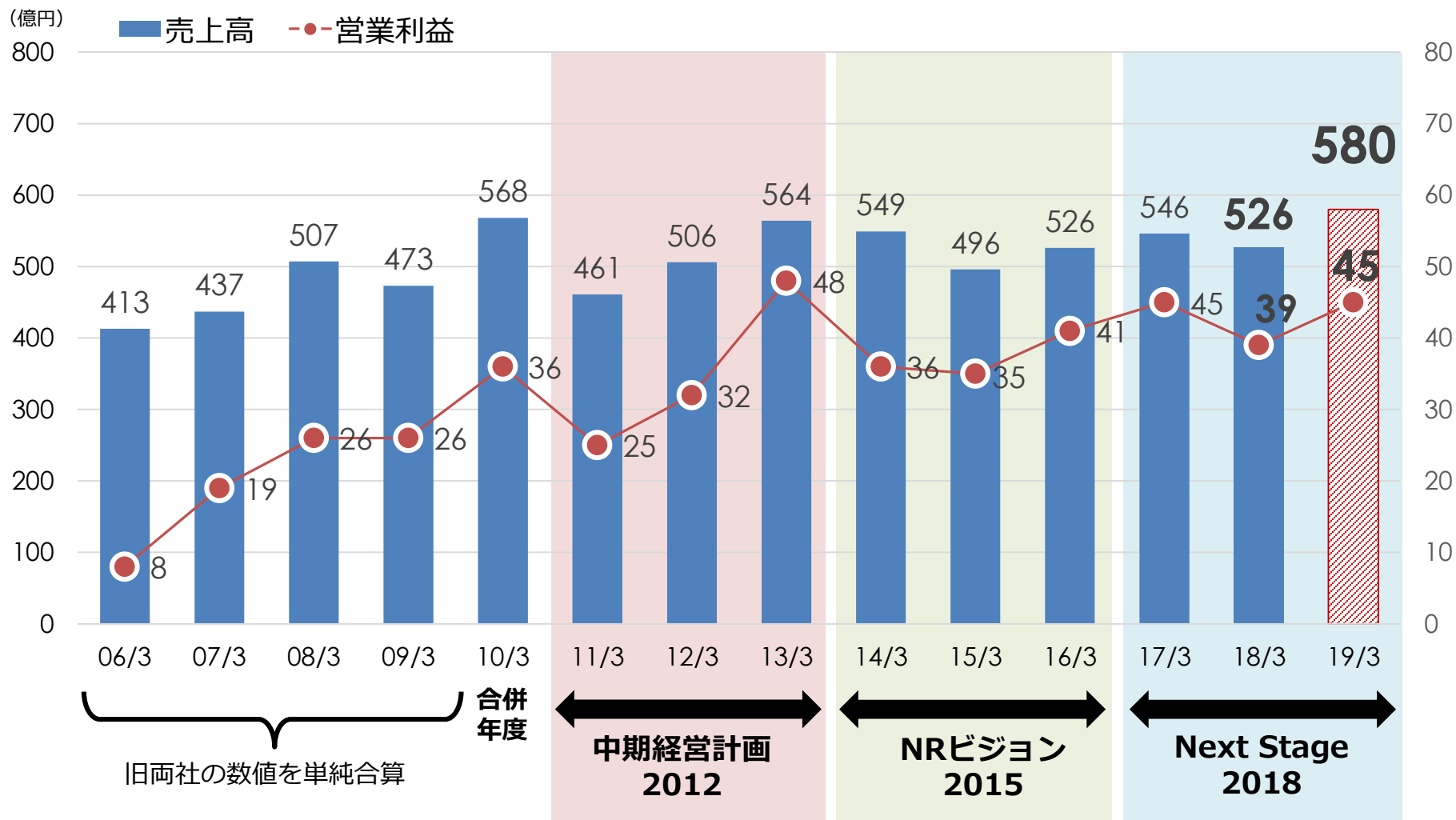
(単位：億円)

	2018年3月期 (実績)		2019年3月期 (予想)		前期比	2019年3月期 (中計目標)	
売上高	526		580		+53	580	
営業利益	39	7.5%	45	7.8%	+5	45	7.8%
経常利益	46	8.8%	49	8.6%	+3	-	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	38	7.4%	34	6.0%	▲4	-	-

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。

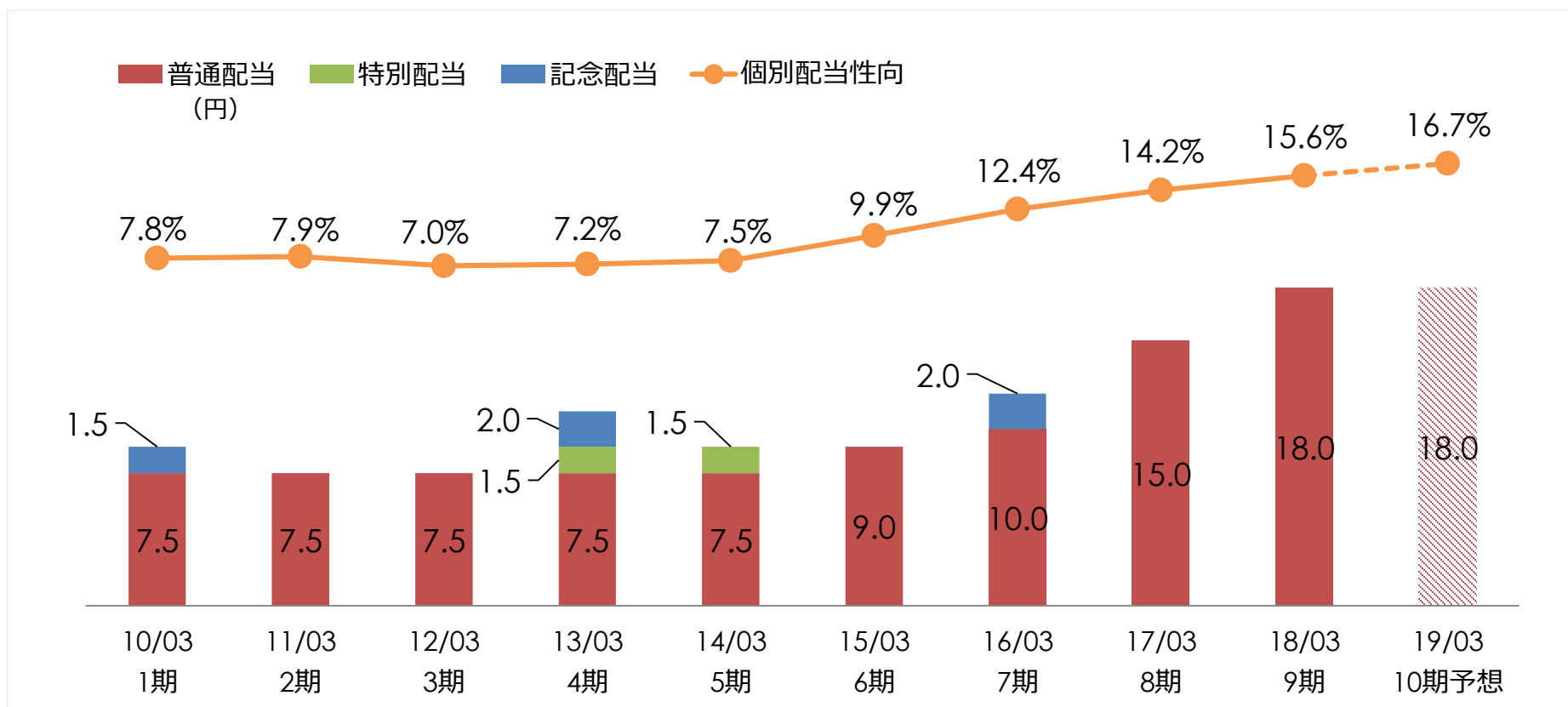
売上高及び営業利益の推移（連結）



配当方針及び配当状況



当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けており、経営体質の強化ならびに将来の事業展開に備えるための内部留保を確保しつつ、配当性向にも配慮しながら安定的な配当を継続していくことを基本方針としてまいります。



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、日本リーテックグループが現時点で入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

なお、異なる結果となった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますので、ご了承ください。

(お問い合わせ先)

日本リーテック株式会社
総務部 広報・IR課

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6
T E L : 03-6880-2710
F A X : 03-6880-2750
H P : <http://www.j-rietec.co.jp/>